

新潟市の「住民バス」について

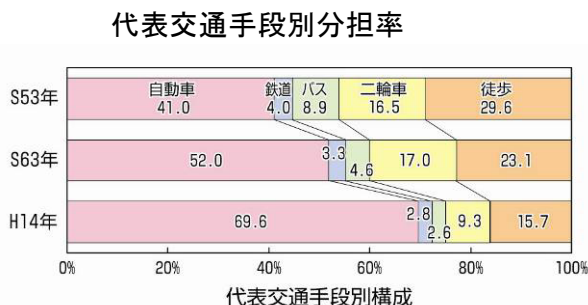
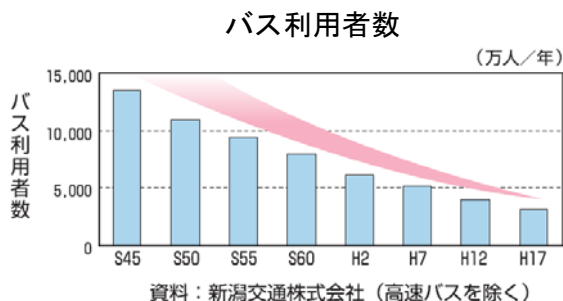
新潟市都市交通政策課

1 はじめに

新潟市は人口 81 万人を擁し平成 19 年には本州日本海側初の政令市に指定されました。「日本海交流都市」「田園型の都市」などを都市像に、活力ある環境先進都市づくりを進めています。本市は平成 14 年にワールドカップサッカーを、昨年 5 月にはサミット労働大臣会議を開催するなど、国際交流に加え、本年は越後が舞台となる NHK 大河ドラマ「天地人」の放映や「トキめき新潟国体」の開催などから、大観光交流年と位置づけています。このような交流を支えるとともに市民の快適な暮らしを確保するため、「人と環境にやさしい交通の実現」は本市の都市政策の重要な課題となっています。

2 バス交通の現状

- 新潟市内の路線バスは新潟交通(株)と関連会社の新潟交通観光バス(株)が運行しており、新潟駅や古町などの都心から周辺地区に向う放射状の路線が主体となっています。
- バス利用者数はマイカーなどの普及に伴い、昭和 45 年頃の 1 億 5 千万人をピークに平成 19 年には約 1/5 の 3 千万人弱まで減少しています。



- このような状況の中、規制緩和により路線の廃止が届出制になったこともあり、平成 15 年 1 月に新潟交通(株)から 24 路線 43 系統の廃止届出がなされました。この廃止地域における生活交通確保策として、住民組織が運営主体となる「住民バス」制度を創設しました。

また、平成 19 年 4 月に政令市となり区制が導入されたことを受け、まちづくりや区役所等への新たな移動ニーズに対応するため、市が運営主体の「区バス」の運行を開始しており中央区を除く 7 区で区バスを運行中です。

さらに、平成 19 年 6 月に国のオムニバスタウンの指定を受け、同年 11 月より中心部を結ぶ基幹バス「リ्यूとリンク」の運行を開始するなどバスを活用したまちづくりを進めています。

3 住民バスについて

○背景

H14.2 改正道路運送法の施行 路線の廃止 許可制⇒事前届出制

H15.1 新潟交通(株)がバス路線 24 路線 43 系統の廃止届

↓

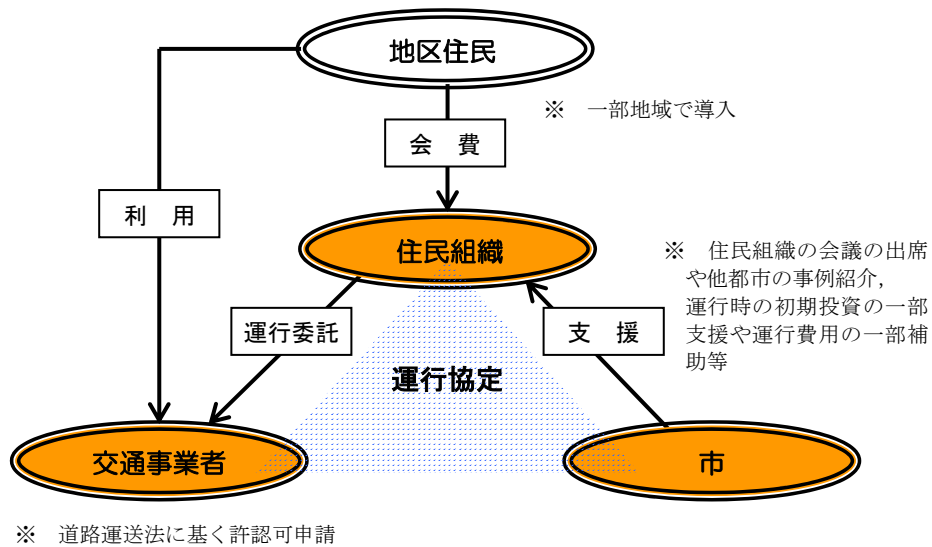
庁内検討会、地元意見交換会、アドバイザー会議の開催

↓

新潟市地域交通計画（バス交通）の策定（H16.3）

「郊外部におけるバス交通については、需給バランスが崩れており、特に地区住民の積極的、主体的な関与が必要」⇒住民バス制度の創設

○住民バス制度 住民組織が主体となって交通事業者・市との三者協定に基づき運行するバスで市は平日運行、1日10便に係る運行経費の7割を上限額に支援



○ 運行経緯

平成 17 年	4 月	赤塚・みずき野・四ツ郷屋地区で運行開始
	10 月	内野上新町、大江山、島見町・太郎代、両川地区の 4 地区
	11 月	茅野山・早通住民バス（カナリア号）
平成 19 年		廃止路線だけでなくバス空白・不便地域に住民バス制度の拡充
平成 19 年	7 月	新潟島に循環バスを走らせる会（にこにこバス）
平成 20 年	4 月	NPO 法人コミュニティバスを走らせる会（Qバス）

カナリア号



Qバス出発式

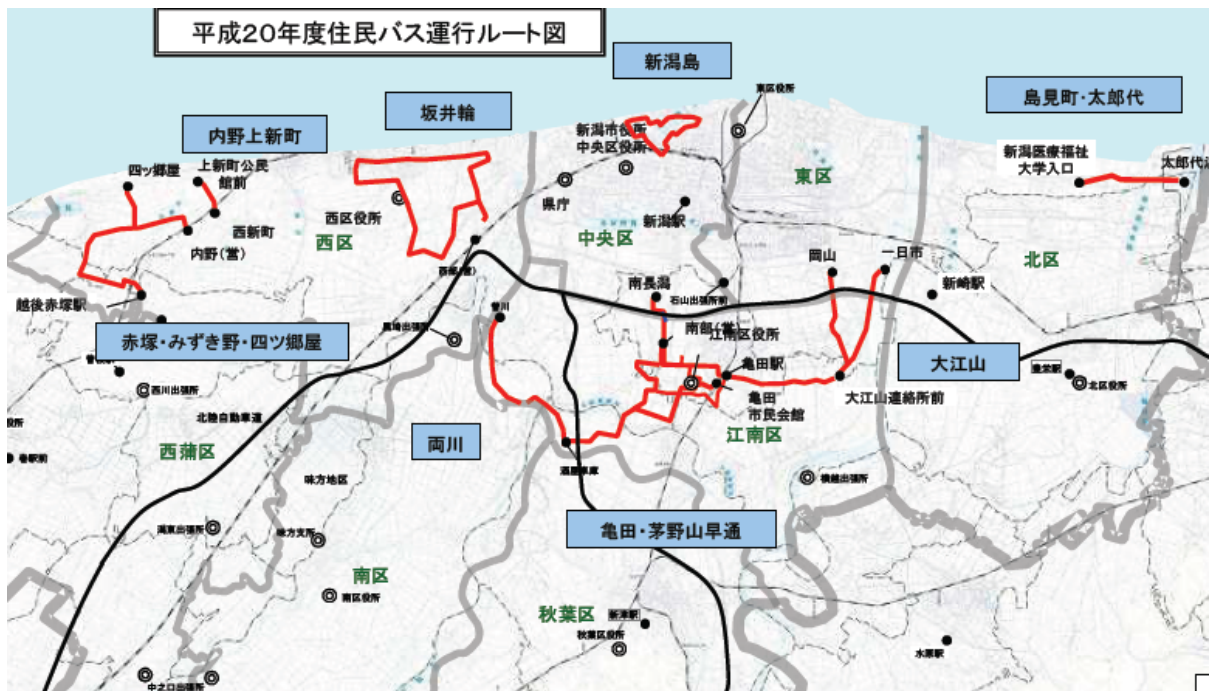


○ 「茅野山・早通生活交通協議会」事務局 縹 恵子さんの話

- ・ 路線バスの廃止に伴い、関係7自治会長などが役場職員の協力を得て住民意識調査、運行経路、運行業者の選定等を実施。
- ・ 9人乗りのジャンボタクシーで検討したことで一部路線バスの競合問題を解決するのに多くの時間を費やしました。また、運行経費の3割を確保することが大きな課題となりました。結局、運賃収入の他に4自治会、760世帯で各世帯の負担金1,000円/年（自治会費の一部）を充てることで平成17年11月から運行開始しました。
- ・ その後、住民からの要望に応え、運行内容を改善しています。アピタ亀田店のご理解とご協力（運行費補助）があり念願だった土、日、祭日の運行が実現しました。また、交通結節点である新潟交通南部営業所への接続や一部区間でフリー乗降を可能にしたことで利用者から喜ばれています。
- ・ 9人乗りと小さいバスなので運転手さんとも顔なじみになり、バス利用を楽しんでいる利用者も多く、市・企業・住民の三者の協力で生活交通が確保されています。

○ 住民バスの今後

- ・ 平成17年に廃止路線代替バスとして、地域住民が主体となり運営する住民バスも3年を経過して、今では廃止路線だけでなくバス空白・不便地域においても地域のバスとして定着してきたが、利用者増に向け、さらなるPRにより路線の認知とニーズに応じた運行内容の継続的な改善が必要です。
- ・ また、運行形態についても更なるタクシーの活用や定時定路線だけでなくデマンド型の導入も今後の検討課題と考えています。



住民バスの概要

地区	赤塚・みずき野 四ツ郷屋	内野上新町	島見町・太郎代	両川	大江山	亀田茅野山・早通	新潟島	坂井輪地区				
組織名	赤塚・みずき野 四ツ郷屋地区 バス運営委員会	内野上新町 バス運営委員会	島見町・太郎代地 区バス運営委員会	両川地域バス運営委員会	大江山地区バス運営委員会	茅野山・早通 生活交通協議会	新潟島に循環バス を走らせる会	NPO法人 コミュニティバスを通す 会				
愛称						カナリヤ号	にこにこ号	Qバス				
運行開始	平成17年4月	平成17年10月	平成17年10月	平成17年10月	平成17年10月	平成17年11月	平成19年7月	平成20年4月				
運行内容	運行主体	新潟交通㈱	新潟交通㈱	新潟交通㈱	新潟交通㈱	さくら交通㈱	新潟交通㈱	新潟交通㈱				
	手段	バス	バス	バス	バス	ジャンボタクシー	バス	バス				
	系統	内野(営) ～四ツ郷屋 ～赤塚駅 他	西新町 ～上新町 (上新町線)	医療福祉大学 ～太郎代浜 (太郎代浜線)	亀田駅前 ～酒屋車庫 (早通線)	菅川 ～酒屋車 庫 (酒屋車庫)	一日市 ～連絡所 (一日市線)	岡山 ～連絡所 (東明線)	南長湯 ～連絡所 (輪ノ子線)	茅野山 ～早通 ～亀田駅 他	舟江病院～古町 ～二葉町 ～舟江病院～古町	済生会第二病院～ 小針駅前～ 済生会第二病院 他
	距離(km)	3.5～10.1km	1.2km	3.5km	8.2km	5.3km	3.7km	3.3km	8.5km	7.0～15.0km	10.1km	15.7～18.2km
	運行便数(便/日)	10便	10便	11便	10便	6便	10便	4便	10便	10便	5便	10便
運賃	100円均一	対キロ区間制	対キロ区間制	対キロ区間制	対キロ区間制	150円均一 (中学生未満100円)	200円均一	200円均一				
収支率(%)	32%	87%	91%	63%	63%	88%	64%	54%	23%	19%	——	

※ 収支率：平成19年度実績
：内野上新町、島見町・太郎代、両川、大江山地区は既存路線バスの延伸であり、収支率は路線全体の実績を表示